



令和7年度アシカル企画展

戦後80年、島根の戦争の記憶



会 期 2025 (令和7) 年8月2日 (土) ~ 9月27日 (土)

10:00 ~ 17:00 (平日・土曜日 開館)

休館日 日曜日・祝日・8/13 ~ 15 (夏季一斉休業日)

会 場 島根大学総合博物館アシカル

松江市西川津町 1060 島根大学松江キャンパス 生物資源科学部3号館1階

※ 入館無料

2025 (令和7) 年は、昭和100年、アジア太平洋戦争終結から80年の節目の年となります。21世紀の今日も、世界では戦争が絶えることがないなか、改めて戦争の負の歴史を学び、考え、伝えていくことの意義が高まっています。この企画展では、地元に残る戦争遺跡や旧制松江高校 (現 島根大学) と戦争との関わりなどについてご紹介します。

1. 島根県の戦争遺跡

1. 大田市三瓶町 三瓶原陸軍演習場跡 (図1)

1892 (明治25) 年、三瓶山麓に正式開場した陸軍の大規模な演習場で、現在も、^{かんてきごう} 監的壕 (砲弾の着弾地点を観測する施設) や兵舎跡などが残されています。

2. 隠岐の島町 西郷海軍望楼跡 (図2・3)

島根県内には、1904 (明治37) 年に勃発した日露戦争前後の国際的な緊張状況を背景として、4か所で海上の警戒監視にあたった海軍望楼が設置されました。

このうち、隠岐島後にあった西郷望楼は、1898 (明治31) 年から1910 (明治43) 年まで利用されていました。1998年度に島根県教育委員会によって発掘調査が行われており、監視にあたった建造物跡やアンテナ跡が見つかっています。望楼には、当時、実用化されたばかりの無線電信送信機も装備されていました。



かんてきごう
図1. 三瓶東の原 監的壕

頑丈なコンクリート造で、正面に観視口 (のぞき穴) があります。ここから、訓練で発射した砲弾の弾道、命中率、破壊力などを確認しました。



図2. 島根県内の海軍望楼跡



図3. 西郷海軍望楼跡 (御崎谷遺跡)

写真：島根県埋蔵文化財調査センター



図4. 歩兵第21連隊練兵場

明治から大正にかけて建造されたレンガ造の屋内訓練施設。国登録有形文化財。



図5. 歩兵第63連隊門柱

連隊の営門門柱で、1948（昭和23）年から1987（昭和62）年までは、松江工業高校の門として用いられました。



図6. 出雲市多伎町 小田防空監視哨の聴音壕
日本海をのぞむ標高54mの丘陵上にあります。聴音壕は、内径3m・深さ2mのコンクリート製で、良好に保存されています。



図7. 大社基地主滑走路

長さ1700m・幅120m。陸上攻撃機「銀河」の離発着用に作られました。実際に、のべ22機の「銀河」が沖縄などに出击しています。

3. 浜田市 歩兵第21連隊関連施設（図4）

島根県内に置かれた陸軍の連隊のうち、浜田にあったのが、歩兵第21連隊です。本連隊は、1898（明治31）年、広島から浜田へ転営、日露戦争、アジア太平洋戦争に参加し、インドネシアのセラム島で終戦を迎えました。

連隊が置かれた現在の県立浜田高校や浜田市立第一中学校の敷地内には、明治から大正時代頃に建造された歩兵第21連隊練兵場などが残されています。

4. 松江市 歩兵第63連隊関連施設（図5）

島根県内に置かれた陸軍の連隊のうち、松江にあったのが、歩兵第63連隊です。本連隊は、1908（明治41）年、大阪から松江（津田村）へ転営、満州事変、日中戦争、ルソン島の戦いに参加し、フィリピンで終戦を迎えました。連隊が置かれた現在の県立松江工業高校の敷地内には、当時の遺構が残されています。

5. 防空監視哨（見張り所、図6）

防空監視哨は、1937（昭和12）年成立の防空法を契機に、沿岸部や山頂部などに設置された、飛行機の監視施設です。主に、20歳以下の一般の若者が、聴音壕の中に入って敵機襲来を目と耳で監視しました。

6. 出雲市斐川町 旧海軍大社基地遺跡群など（図7～10）

アジア太平洋戦争末期、軍部は本土決戦に備えて、新たな航空基地を建設することを計画しました。1945（昭和20）年3月に着工、6月に一部使用開始されたのが、出雲市斐川町に残る海軍大社基地です。この基地跡は、日本でも最大級の戦争遺跡です。

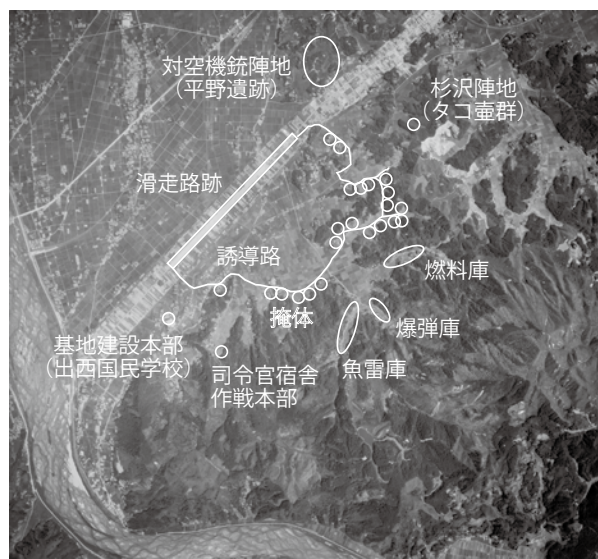


図8. 1962（昭和37）年空中写真に写る大社基地跡

国土地理院写真より作成

主滑走路の周囲には、陸上攻撃機「銀河」を隠した掩体、魚雷庫、爆弾庫などがありました。人間爆弾「桜花」も配備されていました。



図 9. 大社基地設営隊本部が置かれた出西国民学校
現 出雲市 斐川環境学習センター

7. 出雲市多伎町^{くむら}久村鉤山跡 (図 11)

久村鉤山は、固結砂鉄（砂鉄が固まった砂岩）を産出した鉤山です。1940（昭和 15）～1945（昭和 20）年、軍部の鉄鋼増産命令に応えるため、日立製作所安来工場（現 株式会社プロテリアル安来工場）が操業していました。当鉤山は、海軍航空機エンジンに必要な特殊鋼材の生産を支えていました。

2016 年、島根県教育委員会によって発掘調査がなされ、貯水槽、受電所、選鉤場、インクライン原動機室、作業道、山腹水路などが検出されました。

II. 旧制松江高校（現 島根大学）と戦争

1. 戦雲の下^{しょうこう}の淞高 (図 12)

1931（昭和 6）年に勃発した満州事変から、1945（昭和 20）年のアジア太平洋戦争終結にかけては、社会全体が軍国主義に傾いていった時代でした。

島根大学の前身である旧制松江高校でも、軍事教練の教官が増員されていきました。自由な校風だったといわれる松江高校の地にも、軍国主義の空気が及んでいったのです。満州事変から 1 年半後の 1933（昭和 8）年 2 月、卒業を前にした若槻克彦（10 期文乙、のち広島で原爆死）は、『校友会会報』に次の文章を残し、時代の変化を感じています。

「・・・我々が在学したこの 3 ケ年における社会の変化、従って学校内の変化は反省してみれば驚くべきものがある。全く近頃の雰囲気と、2 年前のそれとは、あまりにもかけ離れている。・・・学校内では秩序を守りつつ今少し伸び伸びとした気持ちにはなれないものだろうか。何だか近頃の我々は押しつけられた気分がして仕方がない・・・」

2. 軍靴^{ぐんか}の音 (図 13)

アジア太平洋戦争が泥沼化するにつれ、松江高校の生徒もペンを銃にかえて戦場に向かいました。また、兵役につかない生徒たちも各種の勤労に動員されました。



図 10. 山陰本線 新川鉄橋 銃弾跡

1945 年 7 月 28 日、島根県で最大規模の空襲があり、大社基地周辺では 3 名以上が死亡しました。鉄橋にはその時の銃弾痕が残っています。



図 11. 久村鉤山 選鉤場跡

丘陵の上方から固結砂鉄を細かく砕いていき、精鉤舎（コンクリート残存部分）からトロロッコに載せて搬出しました。



図 12. 松江高校 軍事教練（三瓶山 西の原）



図 13. 秋雨の中、校門を出る出陣学徒(昭和 18 年 10 月)
松江高校からは 20 名の生徒が招集されました。



図 14. 広島市中区基町 第二陸軍病院跡
爆心地から約 1100 m の場所にありました。



図 15. 被爆後の長崎に立つ永井隆博士(昭和 20 年)
写真: 米国国立公文書記録管理局

3. 昭和 20 年 8 月 6 日～広島の原爆投下 (図 14)

「激しい光に目がくらんだ。兵舎が、スローモーション映画のようにくだけ、舞上がった。はっと気がついて泥や木片をかきわけ、はい出して見ると、赤い土煙の中に無数の白い手首が、くねくねと動いていた。それは、木材の下敷きになってもがいていたのだろうか、救いを求めているのだろうか・・・」

7月に広島第二陸軍病院教育隊に召集され、そこで被爆した松江高校卒業生の回想です。多くの松江高校卒業生が広島で被爆し、亡くなりました。

4. 長崎で被爆し、平和を希求した永井隆博士 (図 15)

松江市で生まれ、旧制松江高校OBでもある永井隆博士は、1945（昭和20）年8月9日、助教授をつとめる長崎医科大学附属病院で被爆しました。

妻を亡くし、自身も重い傷を負いながらも、博士は負傷者の救護に献身的に取り組みました。しかし、わずらっていた白血病が悪化し、病床についてからは、執筆活動を通して世界の人々に平和への願いを訴えました。被爆から6年、博士は、ついに他界します。しかし、博士の平和への祈りは、今も多くの人々のなかに語りつがれています。

Ⅲ. 第2次世界大戦後の世界

1. 繰り返される悲劇 (図 16)

今から 80 年前、世界中に甚大な被害をもたらした第 2 次世界大戦（アジア太平洋戦争など）は終結しました。しかし、その後も世界各地では、民族・宗教・イデオロギーの対立を背景とした戦争・紛争が頻発しています。

人類は古代から戦争を繰り返してきました。しかし、大量の核兵器を保有してしまった今日、現代の戦争は人類全体の存亡にも関わります。どうしたら戦争がない世界を実現していけるのか、私たちには叡智の結集が求められています。

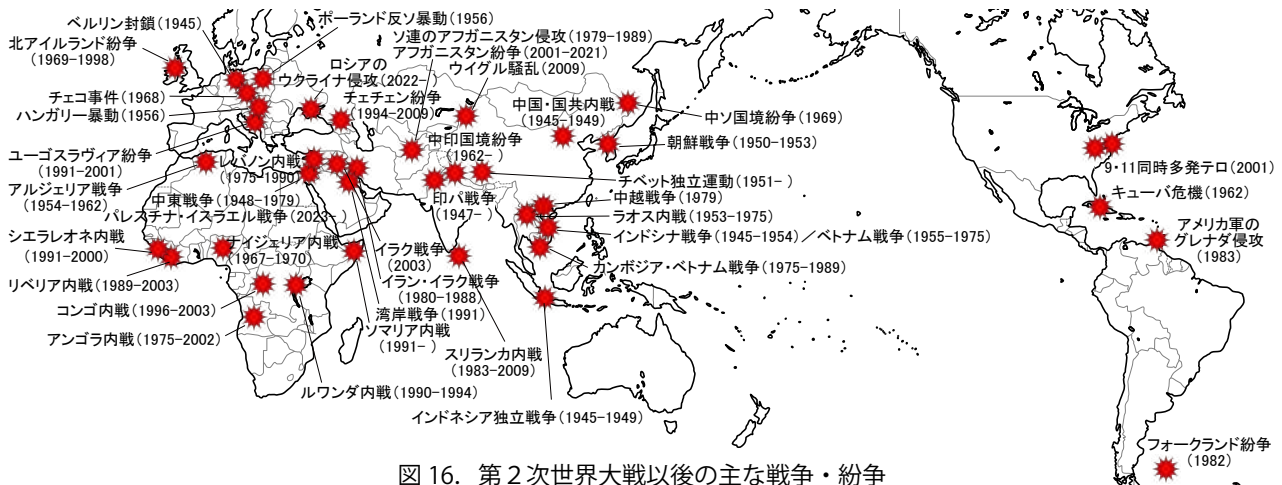


図 16. 第2次世界大戦以後の主な戦争・紛争

主な参考文献 朝日新聞松江支局編『旧制松高物語』1968年／出雲弥生の森博物館『いつまでも戦後でありたい 2024』2024年／岩本崇ほか『戦争遺跡の保存と活用（山陰研究ブックレット14）』2025年／島根県教育委員会『御崎谷遺跡・大床遺跡』2001年／同『島根県の近代化遺産』2002年／同『久村鉦山跡』2019年／島根大学『島根大学史』1981年

SHIMADAI MUSE 第8号

島根大学総合博物館アシカル ニュースレター

発行日 2025 年 8 月 2 日

発行者 島根大学総合博物館

〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

TEL 0852-32-6496

